

授業のテンポについて

指導計画や学習展開がうまくできていても子どもがうまく動いてくれない。その原因の一つは、授業のテンポではなだろうかと考えた。授業をテンポよく進めていくためには、どんなことを考えていけばいいだろうか。私の経験からいくつか考えてみた。

1. 教師の発言や発問のことばは、短くはっきりと。
 - 特に、主要発問は、短く。
1時間のうちの主要発問は、1～3つぐらい。
 - できるだけ復唱は、さげたい。
2. ことばに変化を持たせる。
 - 大きく一小さく ゆっくり一早く 間を開けて一たたみ込むように
 - 身体を使って動作を大きく、大げさに表現する。
 - 感情的な問題は、できるだけ大げさに表現する。
うれしい、やったー、そういうことですよ、なるほど 等
 - 動作化を取り入れてイメージしやすいようにする。
3. 展開を考える。
 - 1時間の見通しを持たせる。
「何をする」「何がわかればいい」「どこまでする」
手順も示す。
 - 結論を先に述べる。→検証型の授業にする。
 - 導入をやめて、一気に本題に入る。
 - 中心課題から始める。
4. やることを明確にし、区別し、同時進行をできるだけ避ける。
 - 教えること、考えさせること、作業すること、調べること 等
5. 子どもの発言の仕方を変える。
 - 挙手発言、指名発言、自由発言、つぶやき 等
6. 遅い子どもを待たない。
 - 授業開始も準備の遅れている子どもを待たない。
 - 始業のチャイムが鳴り終われば、授業を始める。
 - 作業等の「終わり」は、きちんと区切る。だらだらさせない。
7. 行動の早い子をほめて、行動をてきぱきさせる。
8. 子どもが、作業しているときは、赤ペンでチェック等をいれていく。
 - チェック、丸、ライン 等
9. 授業中は、できるだけ教科書・ノートは、持たない。机の上に置く。
10. 授業中、教室の中を動く。
 - できるだけ、黒板の前にじっと立つことを避ける。